

みなさん、こんにちは。
 ほかほか陽気に誘われて公園では桜が満開です。そんな時は少し足をのぼしてお出かけしたくなりますね。
 春の県立文化施設には、楽しいイベントがたくさんありますので、家族やお友達を誘って遊びに来てみませんか？

県立博物館 企画展 県都甲府の500年



1519年、武田信虎が作った新しい城下町、それが甲府の原型です。それから500年、甲府は山梨県の中心であり続けています。実は、戦国大名が作った城下町が、江戸時代、明治時代を通じて県の中心、「県都」であり続けた都市は、全国的にみてもかなり珍しいのです。

そんな甲府の、みなさんが知っているようで知らない歴史をご紹介します。のが、企画展「県都甲府の500年」です。最初に甲府という言葉が使われたのはいつでしょう？ 山梨県はどのようにしてできたのでしょうか、甲府はどうして県庁所在地に選ばれたのでしょうか？ 様々な資料から、甲府の謎に迫ります。

ほかにも、歴代の甲府城主の肖像画や、甲府の豪商の芸術品コレクション、甲府での近代の産業の発展や観光都市としての甲府など、これまで語られることの少なかった、甲府が歩んできた500年の歴史について、わかりやすくご紹介します。
 開催期間は3月16日(土曜日)から5月13日(月曜日)まで。



懷宝甲府絵図 (県立博物館蔵)



武田信虎画像 (重要文化財 大泉寺蔵)

県立美術館 特別展

「デザインあ展 IN YAMANASHI」



NHK Eテレで放送中の番組「デザインあ」。本展は「デザインあ」

のコンセプトを、実際の体験に発展させた展示会です。優れたデザインには、人と人、人とモノを、よりよくつなぐ工夫があります。番組では、身のまわりに意識を向け(みる)、どのような問題があるか探り出し(考える)、よりよい状況を生み出す(つくる)という一連の思考力と感性を「デザインマインド」ととらえ、斬新な映像表現をもちいて伝えてきました。「デザインあ展」は、この「デザインマインド」を見て、体験できる展示会です。

デザインあ展

展示会は3つに分かれています。「観察のへや」では身のまわりにあるモノ・コトが、デザインによってわたしたちとどうつながっているか、見て、考え、つくることができます。つづく「体感のへや」では、番組オリジナルソングや音楽とぴったりにシンクロする映像が、展示室の四方の壁面いっぱいに映し出されます。360度を取り囲む映像と音とで、デザインを体感してください。「概念のへや」では、場、時のながれ、人のうごきを、わたしたちがデザインを通してどう感じているのか、体験型の作品などによって考えることができます。

このほか、体験コーナーでは、番組で人気の「デッサンあ」「みんなのあ」「もん」を、会場内で描いて体験することができます。「デッサンあ」作品は、展示会の公式WEBサイトにも掲載されます。「みんなのあ」は、展示会参加作家によって「おもしろい！」と選ばれた作品が、会場で展示されます。ぜひ挑戦してみてください。

この展示会は、一部の作品をのぞき展示の写真撮影ができます。また、「あ」になるう！」では、「あ」の一部になって、記念写真を撮ることが出来ます。ぜひ撮影してくださいね！
 開催期間は4月13日(土曜日)～6月9日(日曜日)まで。

「デザインあ展」公式サイト
www.design-ah-exhibition.jp

県立考古博物館 春季企画展 「人口拡大の時代 郷村・荘園の成立と展開」



現在、わたしたちの住む日本には、およそ1億3000万人の人が暮らしています。この数は世界の人口ランキングでも第1位というところで、決して広い日本という島国の中に、いかに多くの人々が生きているかを表しています。

一方、歴史をさかのぼってみると、日本に初めからこれほどたくさんの人

が住んでいたわけではないことがわかります。人口はさまざまな理由によって、時代ごとに大きく変動していくものだからです。

さて、今から1000年ほど昔、平安時代の中頃にも、大きな人口の変化が訪れていました。その頃は、ちょうど社会の仕組みがいろいろと変わった時代で、朝廷(国の中央)から派遣された国司(地方の役人)が税金の集め方や国務を一手に担うなど、国のかたちが変わっていききました。

こうした変化は甲斐国(現在の山梨県)にも人口増加のきっかけを与えたようで、当時の遺跡や集落の跡を発掘してみると、その数を一気に増やしている様子がうかがえます。



鎌倉時代の荘園「布施荘」(現在の中央市布施)の五輪塔

そこで今回の展示では、平安時代の中頃以降に人口が急激に拡大する理由と、その頃新たに運営されるようになった「荘園」について探っていきます。また、中世になって誕生した自分たちの力で運営する「郷村」とよばれる村々の姿にも出土品からせまります。

開催期間は4月20日(土曜日)～6月16日(日曜日)まで。

県立図書館

資料紹介展示

「こどもにすすめたい本2019」



2018年に出版された本の中から、山梨県内の公共図書館等の職員が、「幼児」「小学校低学年」「小学校中学年」「小学校高学年」「中学生・高校生」の年代別におすすめしたい本110冊を選びました。

資料紹介展示「こどもにすすめたい本2019」では、これらの本を集めて展示を行います。展示されている本は、手に取って読むことができます。授業で活用したい本、読み聞かせに使う本をお探しの先生方もぜひご覧ください。



今年の展示の様子

開催期間は4月20日（土曜日）から5月16日（木曜日）までです。また開催期間中の土曜日・日曜日・祝日の午後2時30分からは3歳から小学生向け「とことこおはなし会」こどもにすすめたい本「バージョン」として紹介。図書の見聞かせも行います。あわせてお楽しみください。

※4月22日（月曜日）、5月7日（火曜日）、13日（月曜日）は休館日のため、お休みとなります。

県立文学館

開館30周年記念特設展

「太宰治 生誕110年」

「作家をめぐる物語」



「走れメロス」や「人間失格」などの作品で知られる太宰治（1909～1948 青森県生まれ）は、3年の生涯の内、約1年4ヶ月を山梨県で過ごしています。中でも、甲府市御崎町（現・朝日5丁目）で新婚時代を過ごした1939（昭和14）年1月から9月までの間に、いくつもの小説を書き残しています。そして、これらの作品には「御坂峠」や「吉田のまち」（「富嶽百景」）、「甲府銀座」や「舞鶴城跡」（「新樹の言葉」）など、山梨県民にはおなじみの場所の名が数多く登場します。

御崎町から東京の三鷹に転居した後、水門町（現・朝日1丁目）の妻の実家や、湯村温泉の旅館明治などをたびたび訪れています。1945（昭和20）年春には、一家で妻の実家に疎開しますが、7月6日の甲府空襲に遭い、焼け出されてしまいました。この体験は翌年11月、「薄明」として発表されました。

今回の展覧会では、太宰治の山梨との関わりを中心に、有名無名の友人知人たちのエピソードなど、作品だけでは知ることができない、太宰をめぐる物語を紹介いたします。

開催期間は4月27日（土曜日）から6月23日（日曜日）まで。



新婚時代を過ごした朝日5丁目の「太宰治橋居跡」碑「橋居」は飯の住まいの意味

県立科学館

「ゴールデンウィークイベント」開催



山梨県立科学館では、ゴールデンウィークの期間中、様々な「ゴールデンウィーク・イベント」を開催します。サイエンスショーやワークショップ、様々なテーマの科学工作教室や実験教室などを開催し、子供たちが宇宙や科学の不思議に触れることのできるたくさんのお楽しみを提供いたします。

「ゴールデンウィーク・イベント」の開催期間は4月27日（土曜日）から5月6日（月曜日）までです。

また、各イベントの具体的な内容やスケジュールなどの情報は、4月1日以降、県立科学館のホームページなどでお知らせいたします。多くの皆様のご来館をお待ちしています。

問い合わせの電話は0555・254・8151です。

山梨近代人物館

第9回展示

「近代甲府を彩った人々」

「県都甲府500年」



山梨近代人物館は山梨県ゆかりの人物や県政の歴史を紹介して多くの皆さんに親しんでいただいています。今年、甲府は武田信虎によって本拠地として開かれてから500年。4月からはじまる第9回展示は、「近代甲府を彩った人々」県都甲府500年」をテーマに、明治時代、日本の近代化に大きな功績を残した山梨県ゆかりの人々を紹介いたします。

「甲州財閥」と呼ばれる山梨県出身の投資家・実業家のひとりである「若尾逸平」、海外に目を向けて日本の郵便制度をスタートさせた「杉浦譲」、山梨県における女子に対する実業教育や指導者育成に尽力された「伊藤うた」、近代消防の普及や木喰仏の紹介など多岐にわたって活躍した「小宮山清三」、2回にわたって甲府市長を務め貴族院議員にも就任した「名取忠愛」などなど。



山梨近代人物館には、知らないことや知りたいことがたくさんあつまっています。

います。また、館内には、プロジェクトやタッチパネルで答えるクイズなどもあります。楽しいクイズで、たくさんの方々と出会うことができます。山梨近代人物館は、開館時間中は、いつでも無料で観覧できます。また、団体予約も受け付けています。詳しくは、電話でお問い合わせください。お問い合わせの電話は、0555・231・0988です。

先生方へ「博学連携のお知らせ」
美術館、博物館、考古博物館、埋蔵文化財センター、文学館、科学館、

美術館、博物館、考古博物館（埋蔵文化財センター）、文学館、科学館では、教育プログラムの開設や出前授業、貸出教材など各館の特色を生かした教育普及事業を実施しています。詳細は各館担当者までお気軽にお問い合わせ下さい。

- 〈問い合わせ先〉
- 県立美術館 学芸課 電話 0555・2228・3258
 - 県立博物館 企画交流課 電話 0555・2611・2631
 - 県立考古博物館 学芸課 電話 0555・2666・3881
 - 埋蔵文化財センター 電話 0555・2666・3016
 - 県立文学館 学芸課 電話 0555・2335・8080
 - 県立科学館 電話 0555・2548・8151

美術館、博物館、考古博物館、文学館では、小・中・高・特別支援学校の児童と生徒は、常設展・特別（企画）展を無料で観覧できます。なお、近代人物館はどなたでも無料で観覧できます。